

6-2 技術力により冷静に対応！技術的根拠のない修正指示

1. 立場と仕事

道路会社に入社し、数多くの高速道路工事に従事した。入社してから二十数年がたち、既設主要幹線における舗装補修工事の現場代理人として、道路舗装工事（切削オーバーレイ工、床版防水工、薄層舗装工、路面標示工）を昼夜で施工した。過去に事故が数十件発生している問題箇所を48時間で2車線から1車線に変更する緊急工事で、交通規制の解除時間が決められていた。

2. 遭遇した事態

舗装作業が終了して路面標示を施工する際、現場にいない担当者（発注者）より外側線の位置が間違っているのをやり直すように指示が入った。

当該箇所でコンクリート防護柵を設置する業者が現状を見て“路肩の幅が一定ではない。間違っている”と現場にいない担当者に連絡があったとのことであった。携帯電話と路線に設置されているテレビカメラを用いて現場を見せながら説明を試みるも納得してもらえず、具体的にどのように修正するか図面の提示もなく、ただひたすら“直せ”との指示があるだけだった。

3. 対応内容とその結果

2車線を1車線に変更してカーブに擦り付けるため、道路中心線がずれて路肩の幅が一定にはならないのは設計思想から逸脱していないこと、現場にいない担当者の承認印のある図面通りに施工していることを一生懸命説明したが納得してもらえなかった。設計に対する知識に自信があり、施工している外側線が決して間違っていないと確信していた。

夜間交通規制の解放時間との兼ね合いからも実施不可能な指示でもあったため、現地にいた現場施工管理員（発注者）と相談の上、現行のまま作業を継続する旨を現場にいない担当者に連絡して作業を予定通り実施し、作業を終了した。

翌朝、修正指示をした担当者のもとに出向き、技術資料をもとに2車線から1車線に変更するセンターのシフトおよび走行に無理のないすり付けであることを1つ1つ丁寧に説明した。修正指示をした担当者は当初かなり感情的になっていたが、徐々に冷静になり、間違っていないことをようやく理解してもらい、コンクリート防護柵設置業者に現場を引き渡した。

竣工時には優良現場として表彰されるまで、発注者から信頼してもらえるようになった。